

2008年度 立教SFR国際会議助成成果報告書 (A, (B), C)

1. 会議概要

会 議 名	和文	ブラジル日本人移民100年の軌跡		
	欧文	Centurial Trajectory of Japanese Immigrants in Brazil		
主 催	立教大学ラテンアメリカ研究所			
共 催	サンパウロ人文科学研究所			
後 援	日本ラテンアメリカ学会, 日本ブラジル中央協会, DAF (デジタルアーカイブフォーラム), 駐日本ブラジル連邦共和国大使館, 外務省日伯交流年認定事業			
開催責任者	所属	文学部	連絡先:	
	氏名	丸山 浩明	Tel 03 (3985) 2477	Fax 03 (3985) 2477
運営事務局	事務担当者	連絡先:		
	氏名	篠塚 恵子	Tel 03 (3985) 2578	Fax 03 (3985) 0279
開催期間	2008年10月25日から2008年10月26日まで			
開催場所	立教大学池袋キャンパス7号館1階 7102教室			
参加者数※1	学内	5名		
	学外 国内から招聘	9名		
	海外から招聘	4名	1カ国	合計 18名 2カ国
公開講演会等 参加者数※2	①	2008年10月25日	96名	2カ国
	②	2008年10月26日	61名	2カ国
開催日程		午前	午後	夜
	第1日	開会式・基調講演 会議の趣旨説明	ブラジル日本移民研究にお ける「空白」と「断絶」 共同討議	懇親会
	第2日	ブラジルにおけるに日系移 民資料の分析・保存とデジタ ルアーカイブ構築	ブラジルにおけるに日系移 民資料の分析・保存とデジタ ルアーカイブ構築 共同討議	
	第3日			
開催経費総額	予算額	2,950,000 円	執行額	2,784,568 円

※ 1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※ 2 一般に公開された講演会等に聴講のために参加した者。講演者、パネラー等は除く。所要経費が60万円以上の会議で参加者がのべ100人を超える場合は、参加者名簿を添付すること。

2. 開催趣旨概要

ブラジルにおける日本移民の歴史は、2008年にちょうど100周年を迎えた。当国際会議はこの期を捉え、以下のような目的のもとに開催された。

- ・ブラジル日本移民研究の重要性とその学問的・社会的な意義を検証する。
- ・ブラジル日本移民研究の足跡を多角的に分析し、残された課題や移民研究の深化に向けた今後の具体的方策を検討する。
- ・2007～2008年度立教大学 SFR (学術推進特別重点資金) 単独プロジェクト研究課題「ブラジルにおける日系移民資料の分析・保存とデジタルアーカイブ構築：移民百年の軌跡」の研究成果を公表し、ブラジル日本移民研究の新たな視座と、移民資料の恒久的な保存・公開方法の在り方を広く社会に提案する。
- ・日本とブラジルの長年にわたる友好・協力関係を確認し、両国の今後の国際・研究交流のあり方を模索する。

3. 国際会議の成果概要・今後の展望

国際会議「ブラジル日本人移民100年の軌跡」は、2日間にわたり滞りなく、盛況のうちに執り行うことができた。参加者は、大学の研究者はもとより、南米の駐日大使、新聞記者(朝日・ニッケイ)、国立国会図書館の職員、大学院生、ブラジル移民やその親族、立教大学ラテンアメリカ講座受講生など、実に多彩な顔ぶれとなり、研究成果を広く社会に公開して意見交換を行う貴重な機会となった。

ブラジルから招聘した研究者は、これまでブラジル日本移民研究を支え、そして今後もその重責を担って行くであろう一世や二世であり、彼らと日本のブラジル移民研究者がともに研究成果を披露し、さらに共同討議において移民研究の課題や将来的な展望について具体的かつ建設的に意見交換ができたことは、非常に大きな成果であった。昨年はブラジル日本移民100周年を記念して、日本・ブラジル両国でさまざまなイベントが「外務省日伯交流年認定事業」などにより実施されたが、当国際会議のように正面から日本移民を見据えた学術的な事業は希有であり、また過去を振り返るだけでなく、両国の将来的な学術交流にまで踏み込んで議論ができたことも、意義のある大きな成果といえる。

また、2007年度立教大学 SFR 単独プロジェクト研究により進めてきた、ブラジル移民の急速な高齢化にともなう移民資料の消失を食い止めるための活動とその成果を、デジタルアーカイブとして広く社会に公開して高い評価を得られたことも、もう一つの大きな成果であろう。

このデジタルアーカイブについては、国際会議終了後、立教大学メディアセンター、図書館、リサーチイニシアティブセンターの関係者を交えて協議した結果、当面メディアセンターの技術的サポートを得て本学で公開していくことになった。加えて、本デジタルアーカイブについては、国立国会図書館も関心を示しており、2009年1月下旬に両者の協調に向けた話し合いの機会がもたれた。その結果、デジタルデータの永続的な保存・管理や、ブラジル日本移民に関わる包括的なデジタルアーカイブの構築に向けて、今後国立国会図書館とも協調していくことを確認した。

なお、当国際会議の講演および共同討議の内容については、現在論文集として活字化を進めており、いずれ著作物としてもその成果を世に問い、後世に残したいと考えている。

